

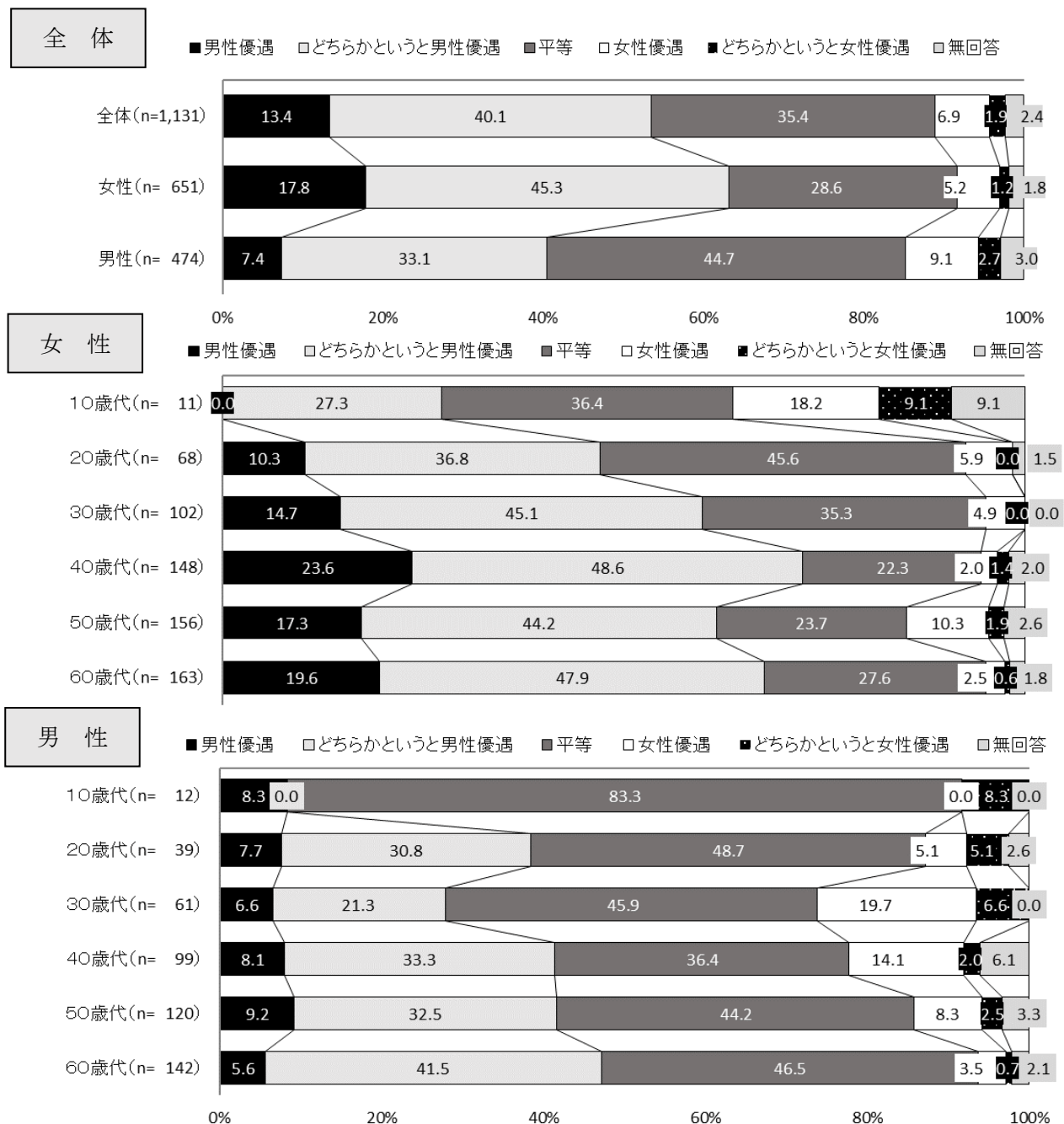
## 2 男女平等意識と実態について

問1 あなたは次の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑦の項目ごとに1つずつ選んでください。

### ① 家庭生活

家庭生活における男女の平等感については、「どちらかというと男性が優遇されている」が40.1%と最も高くなっており、「平等である」の35.4%を上回りました。

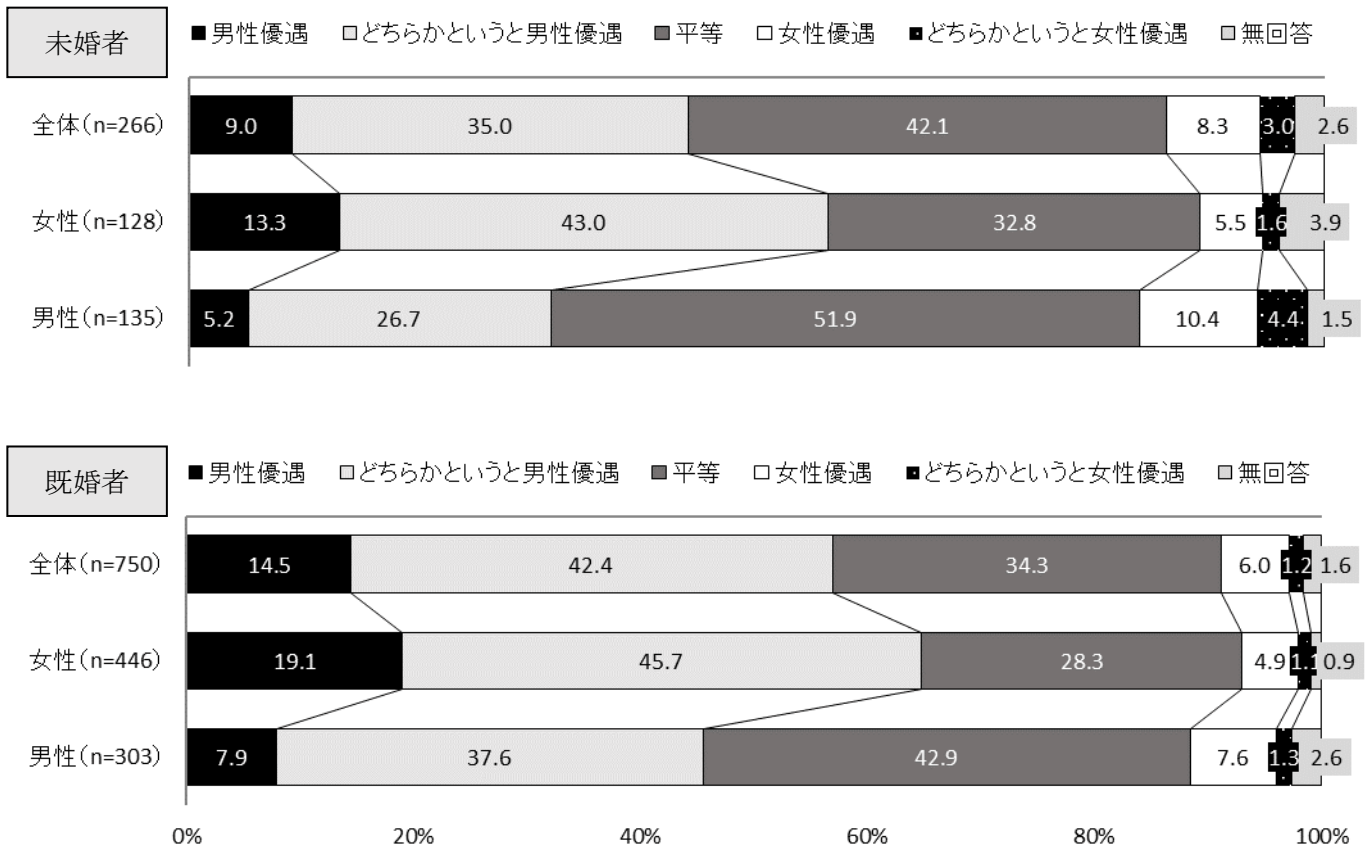
性・年代別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感（「男性優遇」と「どちらかというと男性が優遇されている」を合わせたもの）が高い傾向が見られ、女性63.1%、男性40.5%と、女性の方が約23ポイント高くなっています。特に女性の40歳代から60歳代では6割を超えています。また、すべての年代で男性の方が「平等である」の割合が高くなっています。



### 【未婚者・既婚者別の状況】

未婚者・既婚者別にみると『男性優遇』感について、女性は、未婚者 56.3%、既婚者 64.8%と既婚者が約9ポイント高くなっています。一方、男性においても、未婚者 31.9%、既婚者 45.5%と既婚者が約14ポイント高くなっています。

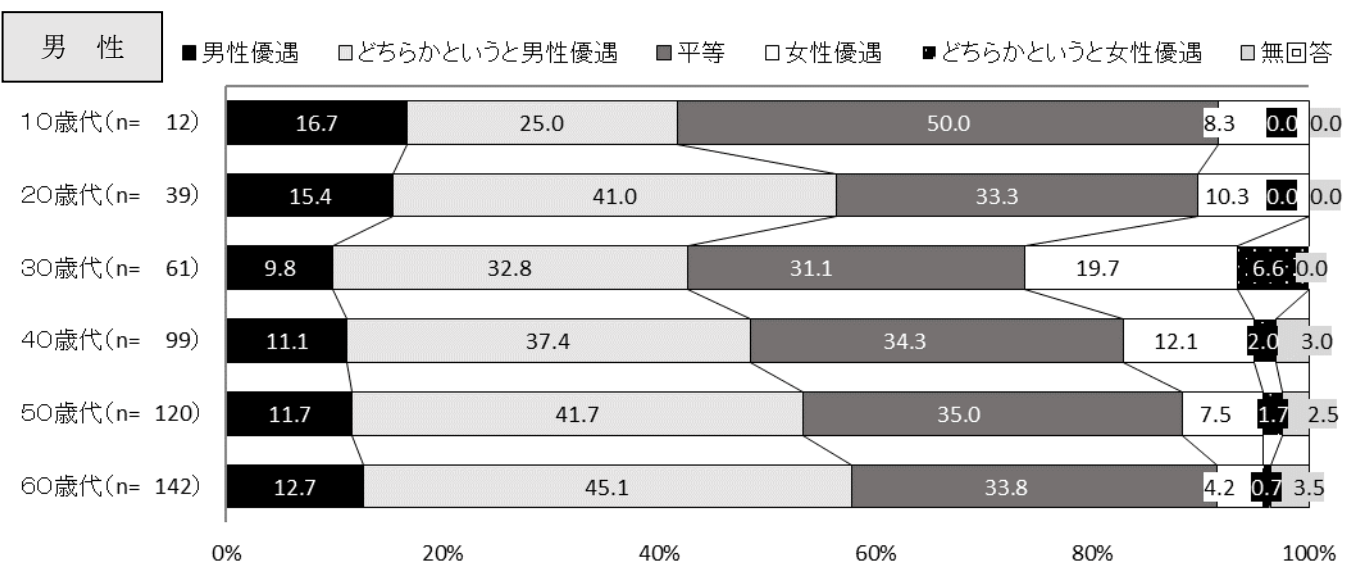
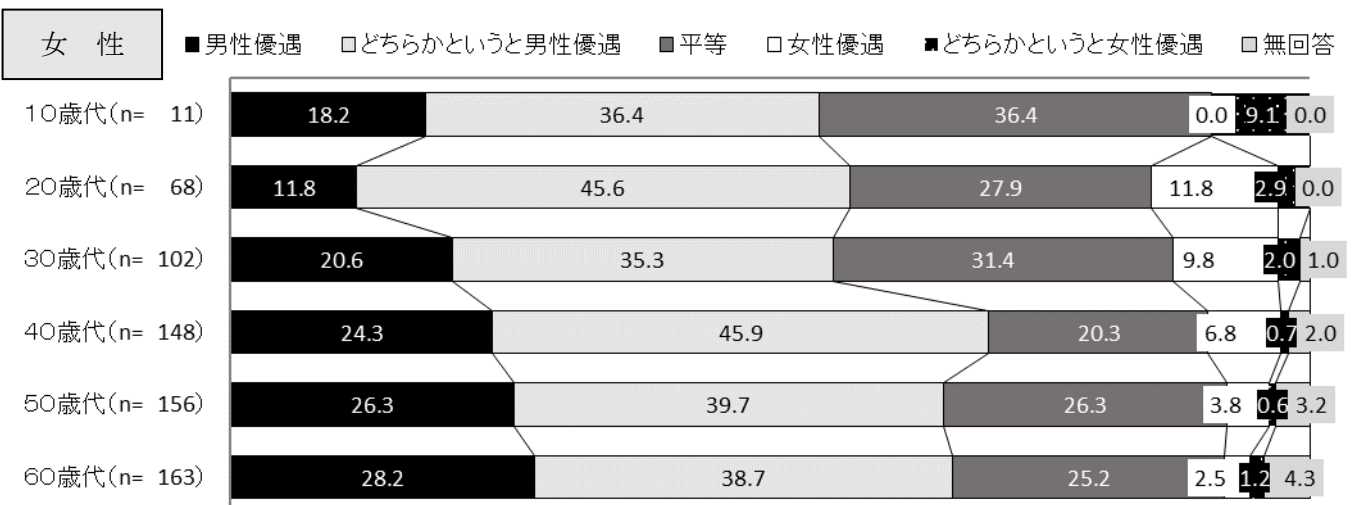
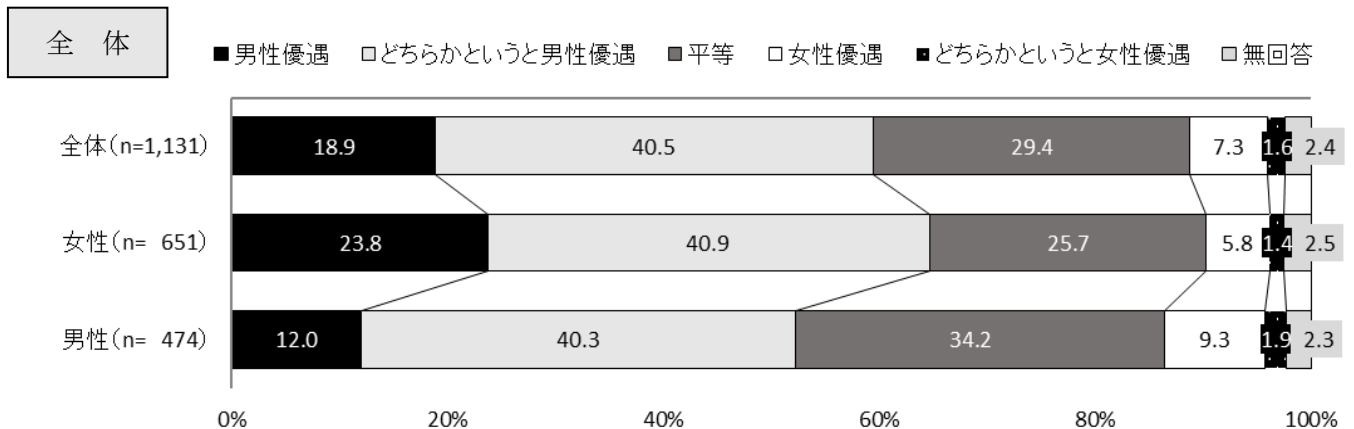
『男性優遇』感、『女性優遇』感（「女性優遇」と「どちらかというと女性が優遇されている」を合わせたもの）、「平等である」を比較すると、未婚者の男性は「平等である」の割合が高く、5割を超えており、それ以外は『男性優遇』感が高くなっています。



## ② 職場

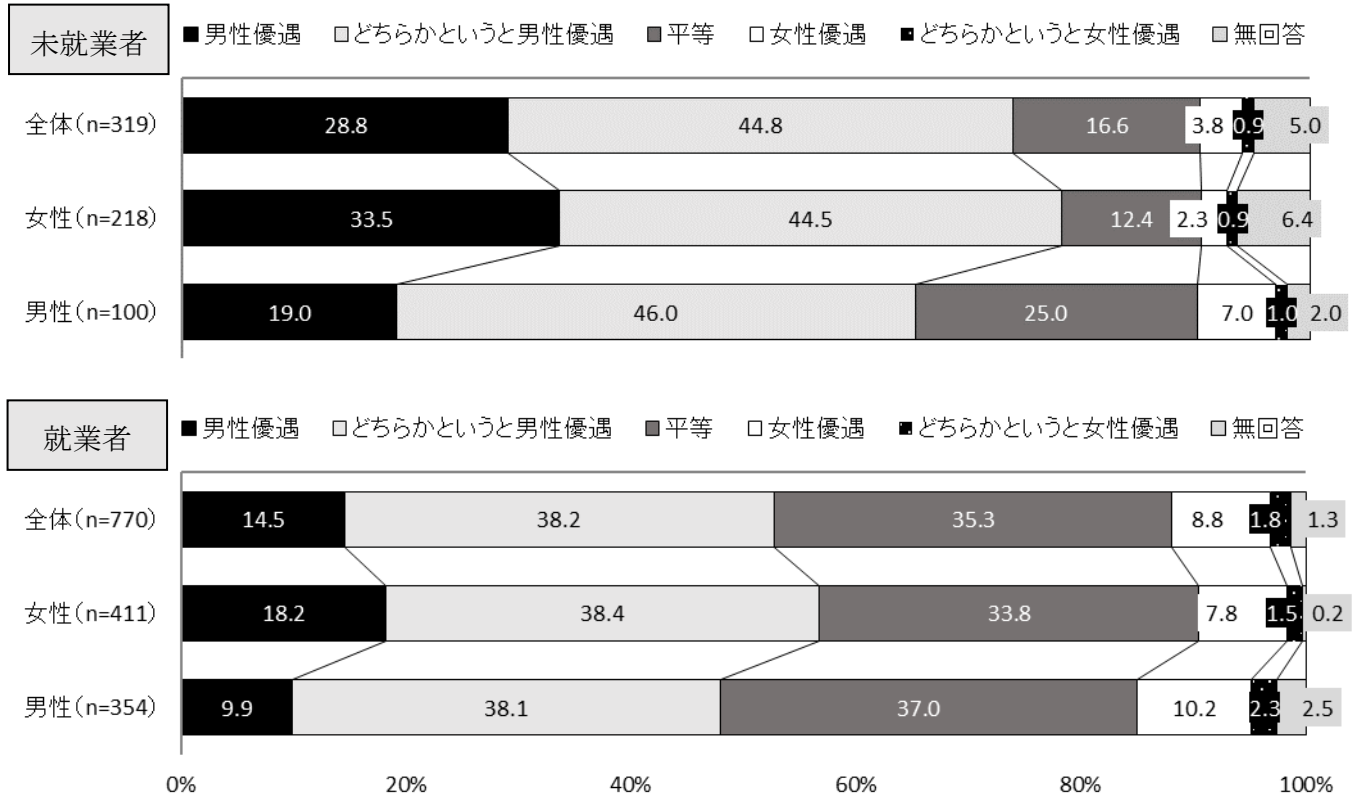
職場における男女の平等感については、「どちらかというとも男性の方が優遇されている」が40.5%と最も高く、『男性優遇』感は59.4%となっています。

性・年代別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感が高い傾向が見られ、女性64.7%、男性52.3%と女性の方が約12ポイント高くなっています。特に女性の40歳代から60歳代では7割前後となっています。また、『女性優遇』感は、男性の30歳代が26.3%と、他の年代よりも高くなっています。



【未就業者・就業者別の状況】

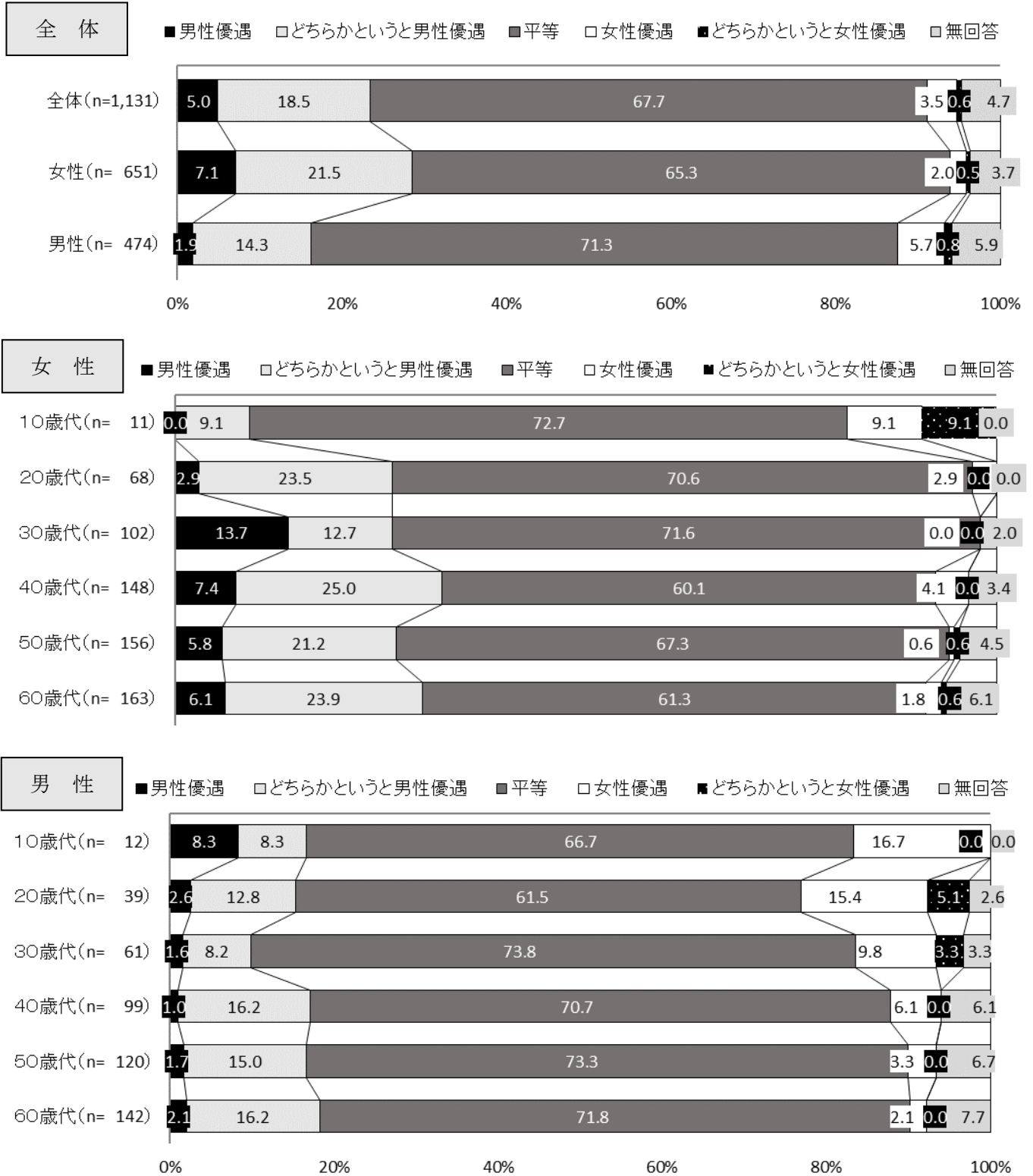
未就業者・就業者別にみると『男性優遇』感について、就業の有無に関わらず高い傾向は同じですが、就業者の方が未就業者より男女とも低くなっています。女性は未就業者 78.0%、就業者 56.6%と就業者が約 21 ポイント低く、男性においても、未就業者 65.0%、就業者 48.0%と就業者が 17 ポイント低くなっています。



### ③ 学校教育の場

学校教育の場における男女の平等感については、「平等である」が67.7%と最も高くなっています。

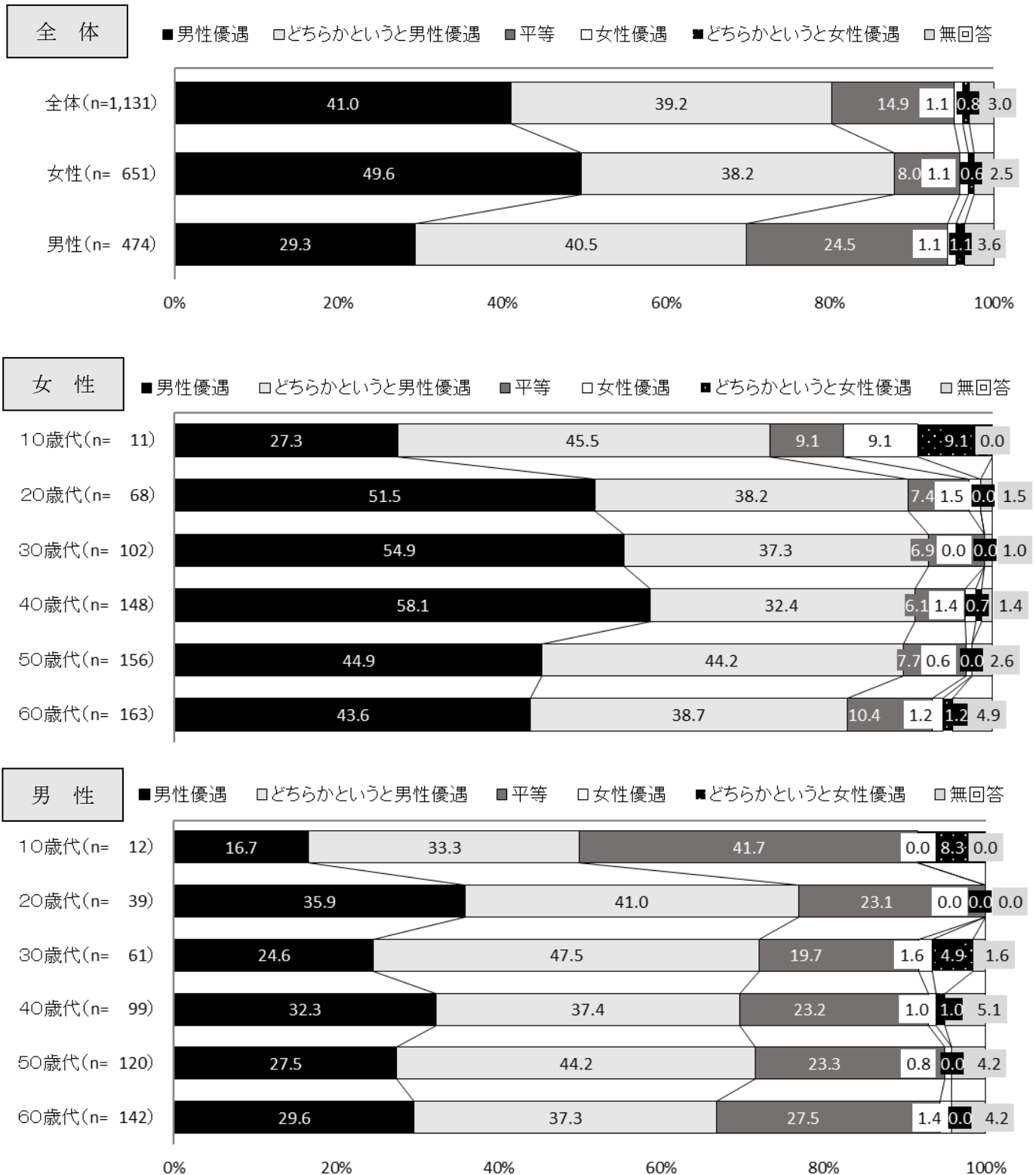
性・年代別にみても、全体的な傾向とおおむね同様となっています。



#### ④ 政治の場

政治の場における男女の平等感については、「男性優遇」が41.0%と最も高く、『男性優遇』感  
は80.2%となっています。

性・年代別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感が高い傾向がみられ、特に女性の20歳  
代から50歳代では9割前後となっています。また、「平等である」と感じている女性の割合は8.0%  
と設問7項目のうち最も低くなっています。

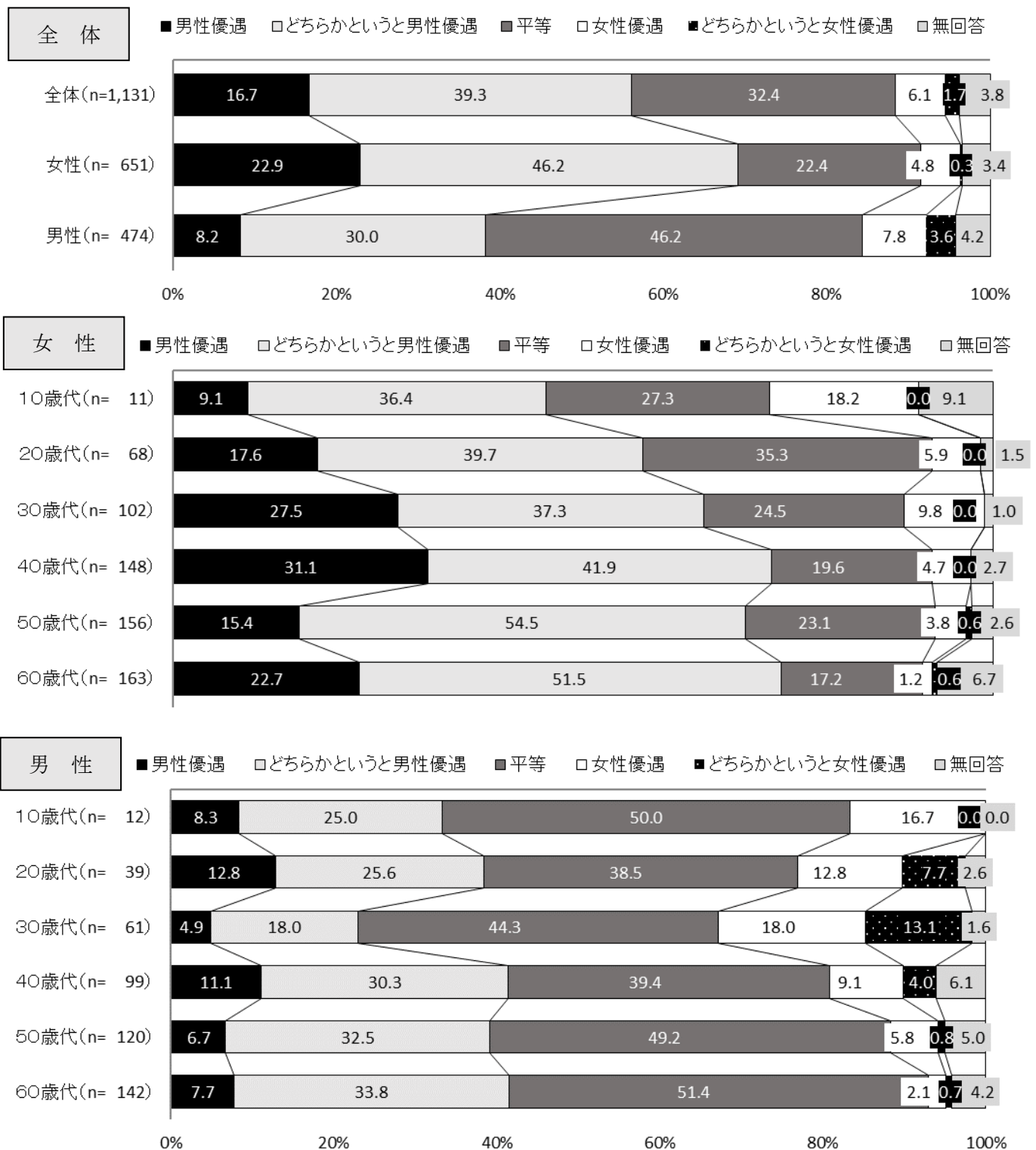


## ⑤ 法律や制度上

法律や制度上の男女の平等感については、「どちらかというとなりの方が優遇されている」が39.3%と最も高く、次いで「平等である」が32.4%となっています。

性・年代別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感が高い傾向が見られ、女性69.1%、男性38.2%と約31ポイント女性が高く、設問7項目のうち最も男女差が大きく、特に30歳代以上でその差が顕著になっています。

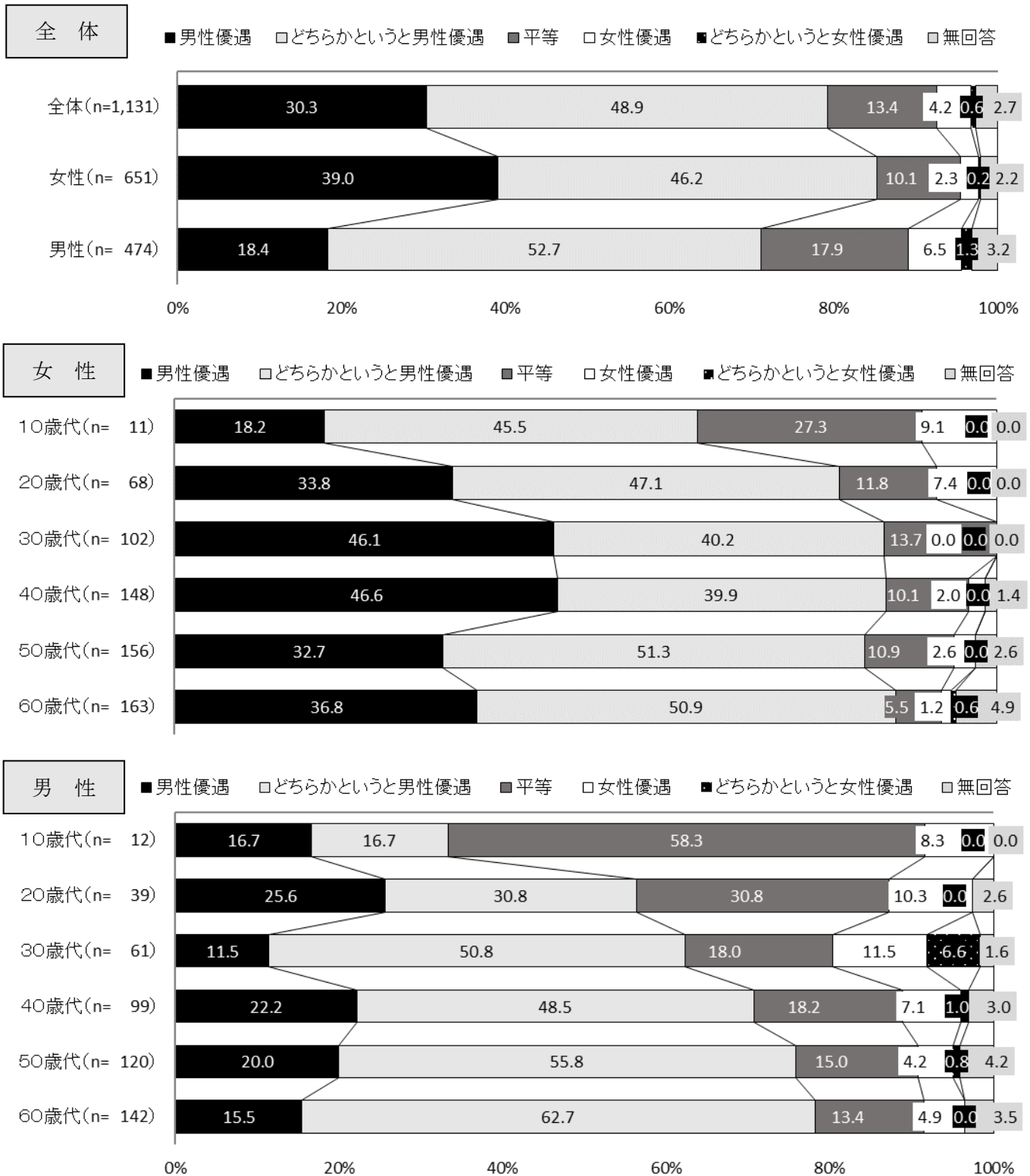
男性は「平等である」が最も高く46.2%となっています。また、『女性優遇』感は男性の30歳代が3割を超えており、他の年代よりも高くなっています。



## ⑥ 社会通念・慣習・しきたり

社会通念・慣習・しきたりの男女の平等感については、「どちらかというと男性の方が優遇されている」が48.9%と最も高く、『男性優遇』感は79.2%となっています。

性・年代別にみると、『男性優遇』感は、男性よりも女性で高い傾向がみられ、若い年代ほどその差が大きく、また男性は年代が上がるにつれて割合が高くなっています。女性は20歳代から60歳代で8割を超えており、男性は40歳代以降で7割を超えています。

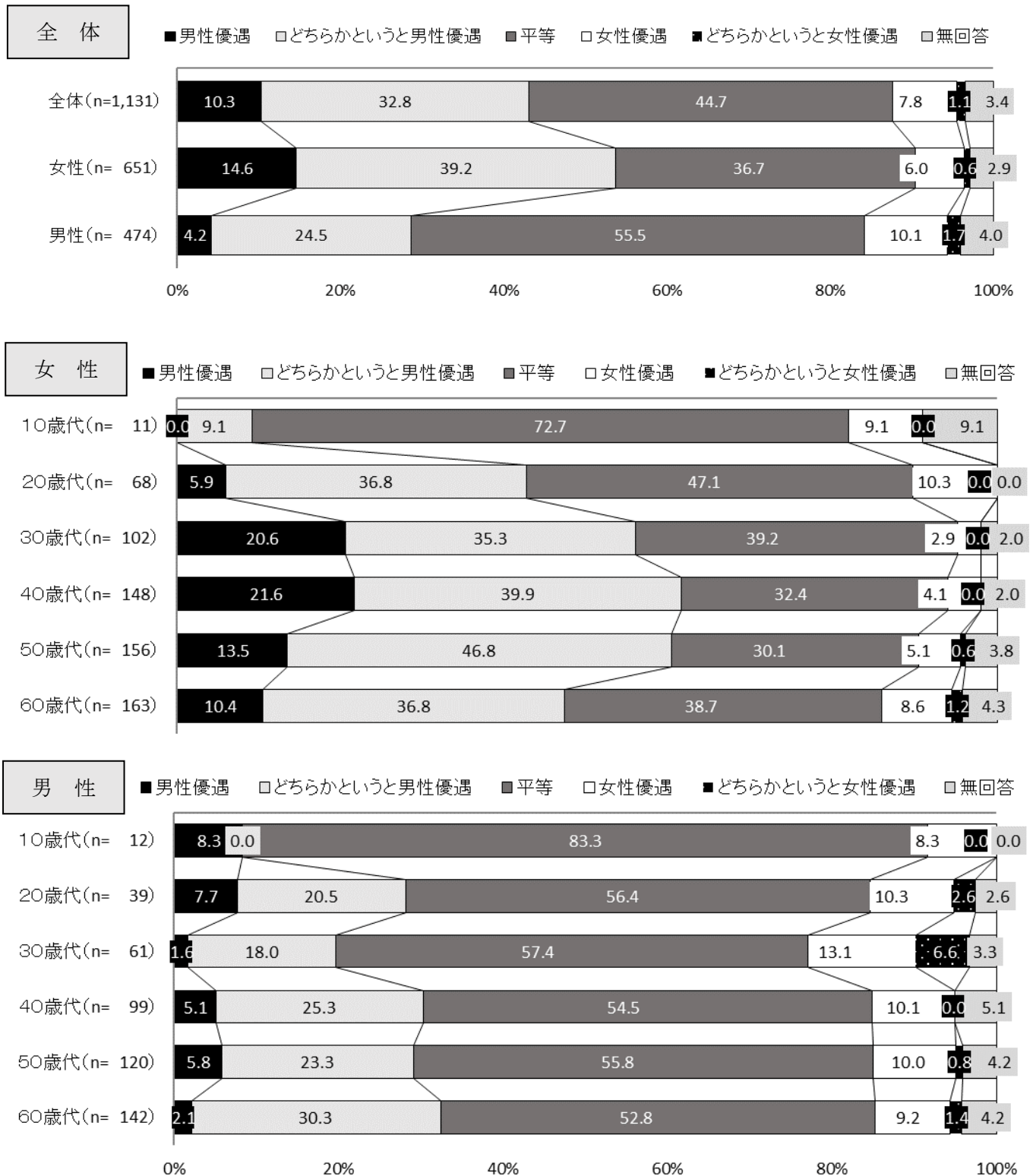




## ⑦ 地域活動（自治会・PTA・ボランティア活動など）

地域活動における男女の平等感については、「平等である」が44.7%と最も高く、次いで「どちらかというと男性優遇」が32.8%となっています。

性・年代別にみると、女性は「どちらかといえば男性優遇」が39.2%、男性は「平等である」が55.5%で最も高くなっています。また、若い年代では男女ともに「平等である」が高い傾向がみられ、特に男性は10歳代が83.3%と最も高く、全ての年代で5割を超えています。



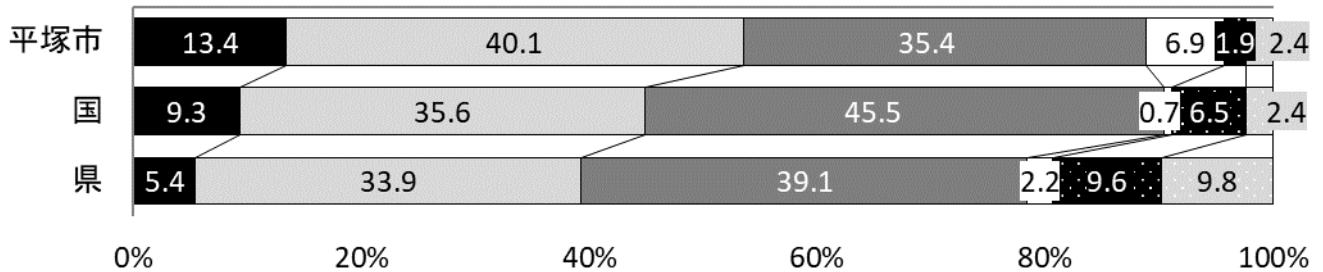
## 他調査との比較

令和元年度に国が実施した調査と比較すると、『男性優遇』感は、すべての項目において、平塚市が国を上回りました。一方、『女性優遇』感においては、「⑦地域活動」を除いて、平塚市が国を上回りました。また、「③学校教育の場」における「平等である」の割合は、国の 61.2%に対して、平塚市は 67.7%と約 7 ポイント高くなっています。「①家庭生活」について、「男性優遇」は市が約 4 ポイント高く、「平等」は国が 10 ポイント高くなっています。

平成 28 年度に神奈川県が実施した調査（7 項目中、「④政治の場」、「⑤法律や制度上」を除く 5 項目が該当）と比較すると、『男性優遇』感は、すべて平塚市が神奈川県を上回りました。

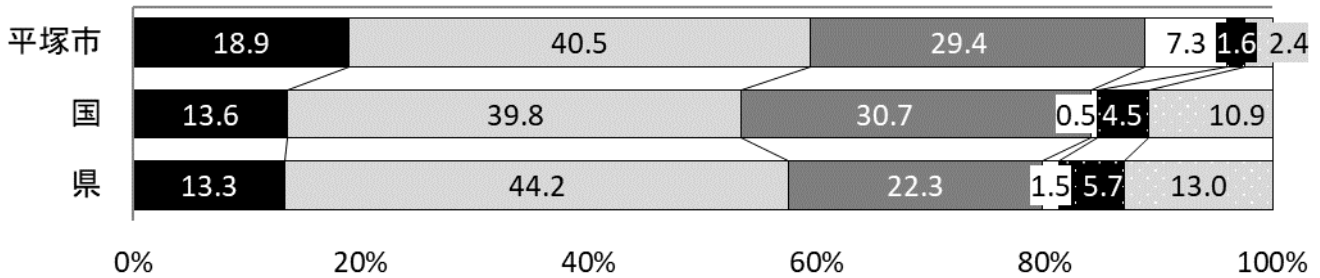
### ① 家庭生活

■ 男性優遇 □ どちらかという男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかという女性優遇 □ 無回答等



### ② 職場

■ 男性優遇 □ どちらかという男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかという女性優遇 □ 無回答等



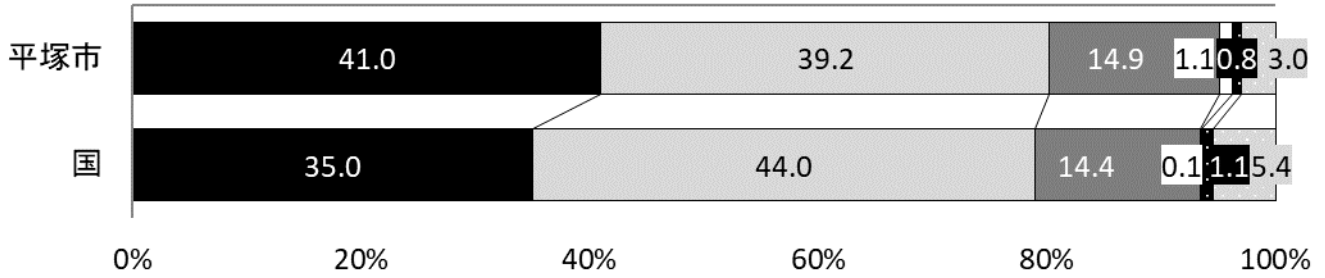
### ③ 学校教育の場

■ 男性優遇 □ どちらかという男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかという女性優遇 □ 無回答等



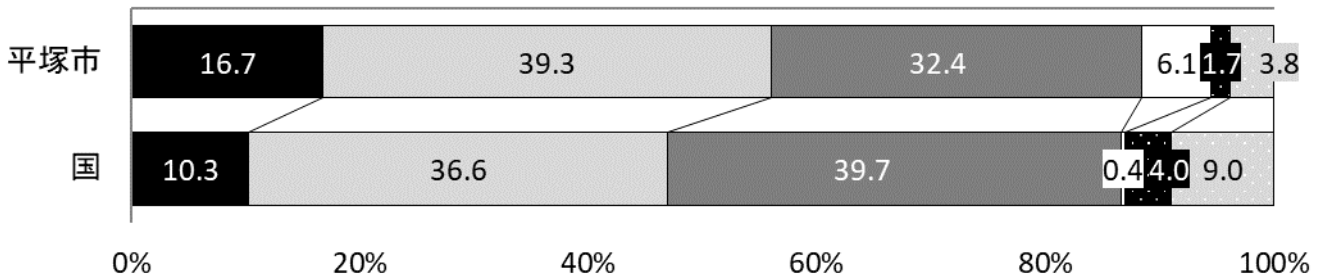
#### ④ 政治の場

■ 男性優遇 □ どちらかというと男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかというと女性優遇 □ 無回答等



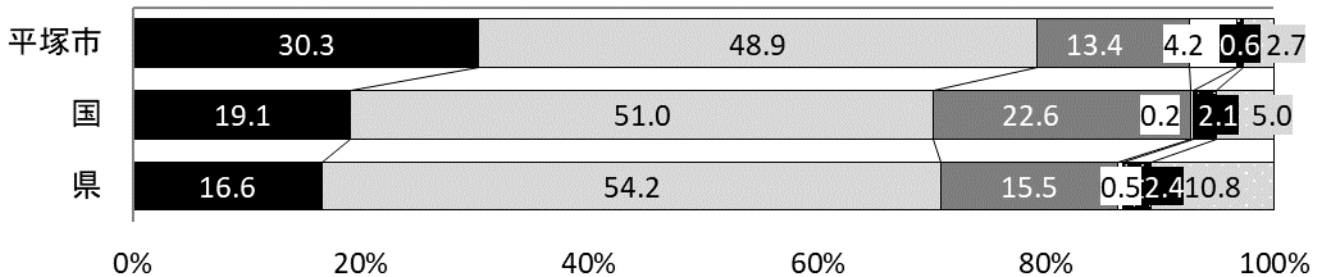
#### ⑤ 法律や制度上

■ 男性優遇 □ どちらかというと男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかというと女性優遇 □ 無回答等



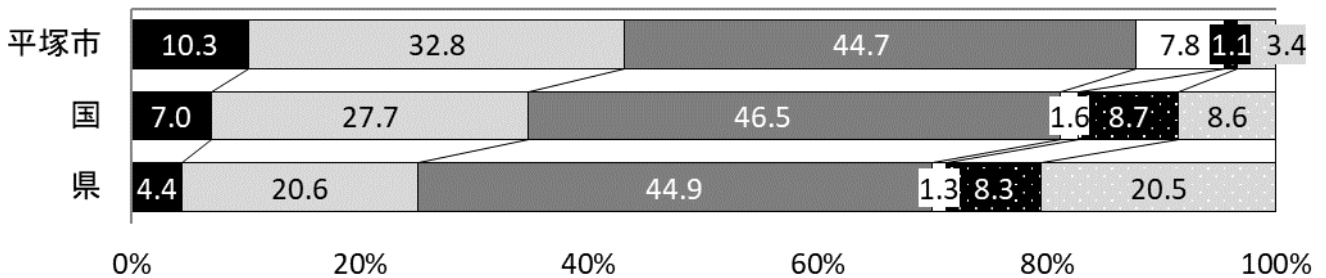
#### ⑥ 社会通念・慣習・しきたり

■ 男性優遇 □ どちらかというと男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかというと女性優遇 □ 無回答等



#### ⑦ 地域活動（自治会・PTA・ボランティア活動など）

■ 男性優遇 □ どちらかというと男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかというと女性優遇 □ 無回答等



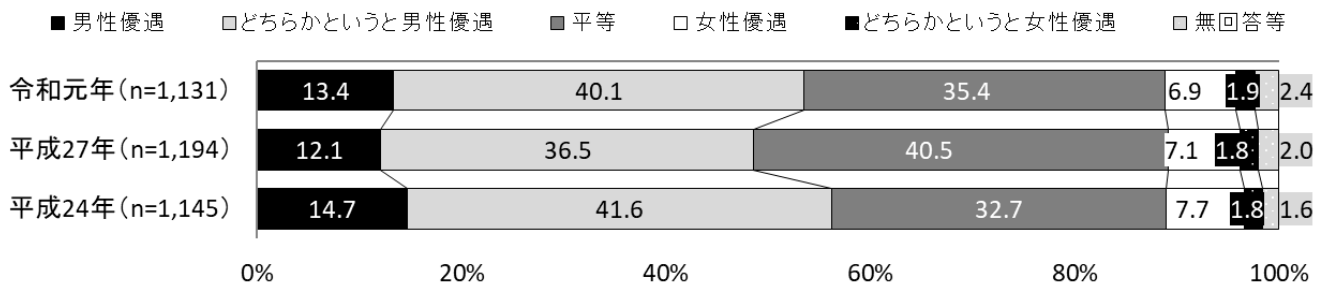
資料：内閣府「男女共同参画に関する世論調査」（令和元年度）  
 神奈川県「県民ニーズ調査（課題調査）」（平成28年度）

## 経年比較

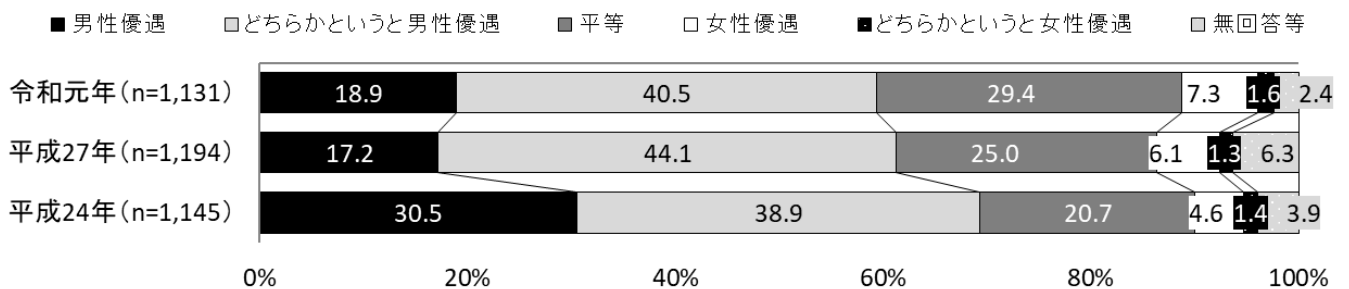
過去に実施した調査と比較すると、『男性優遇』感の割合は、平成 24 年度から 27 年度において、「⑤法律や制度上」を除いて一旦下がりましたが、今回の調査では、「②職場」を除いて再び上がっています。

「②職場」の『男性優遇』感は、平成 24 年度の 69.4%から、61.3%、59.4%と徐々に下がる一方、「平等である」は徐々に上がっています。「⑤法律や制度上」の『男性優遇』感は、平成 24 年度の 47.0%から、52.0%、56.0%と徐々に上がっています。

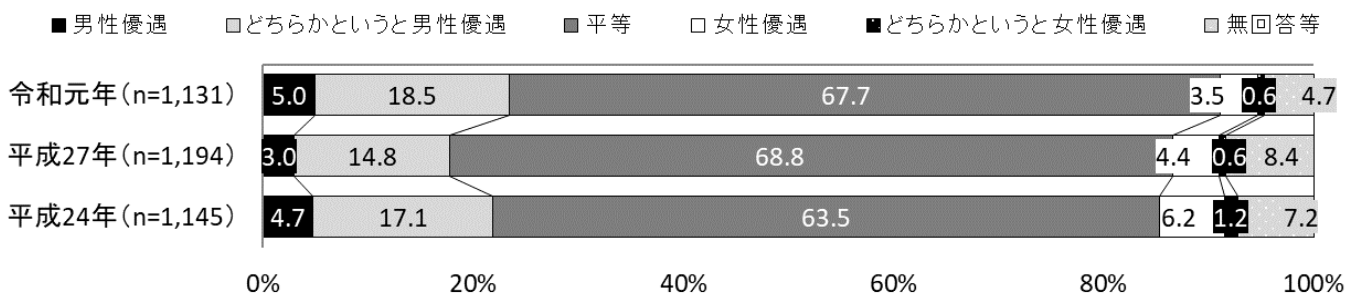
### ① 家庭生活



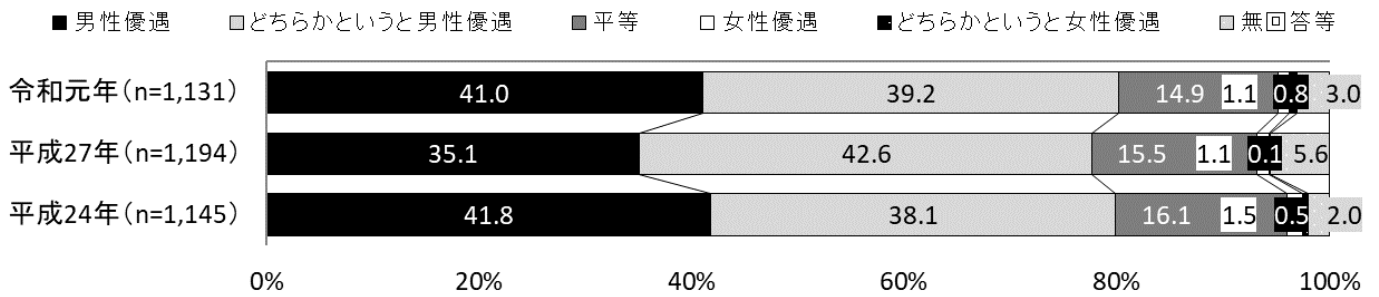
### ② 職場



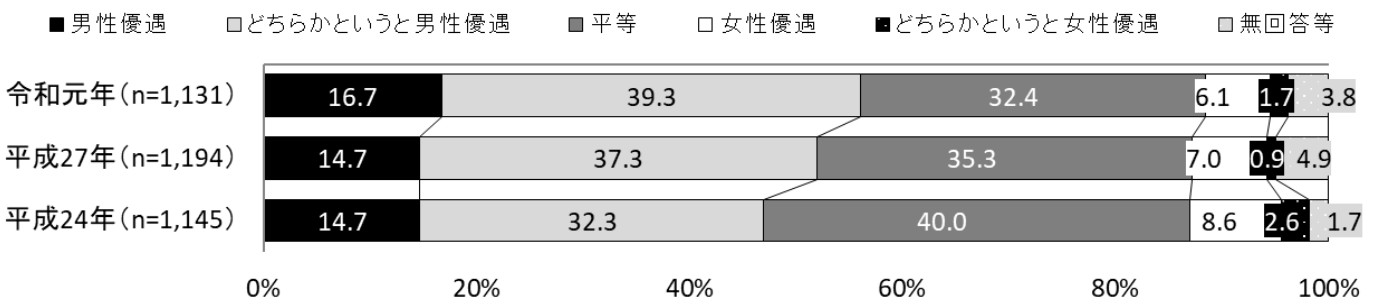
### ③ 学校教育の場



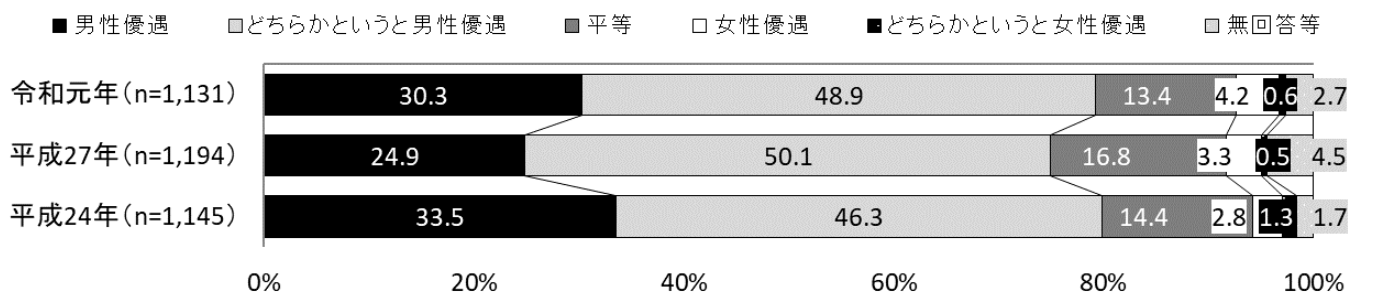
#### ④ 政治の場



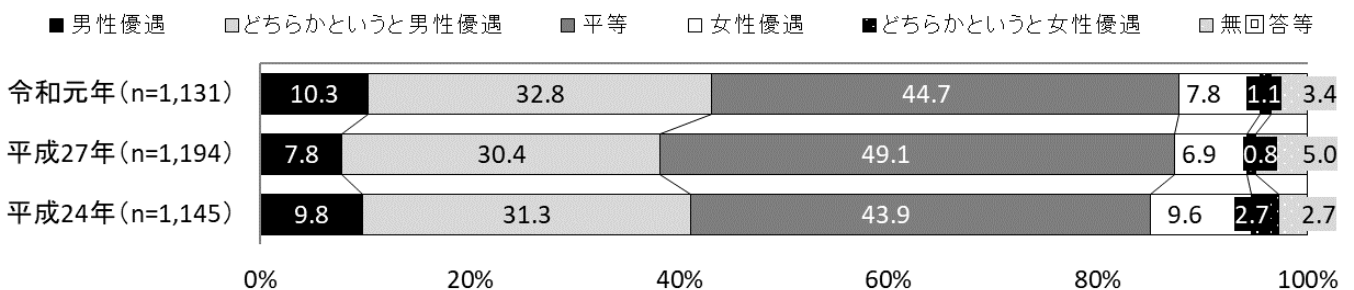
#### ⑤ 法律や制度上



#### ⑥ 社会通念・慣習・しきたり



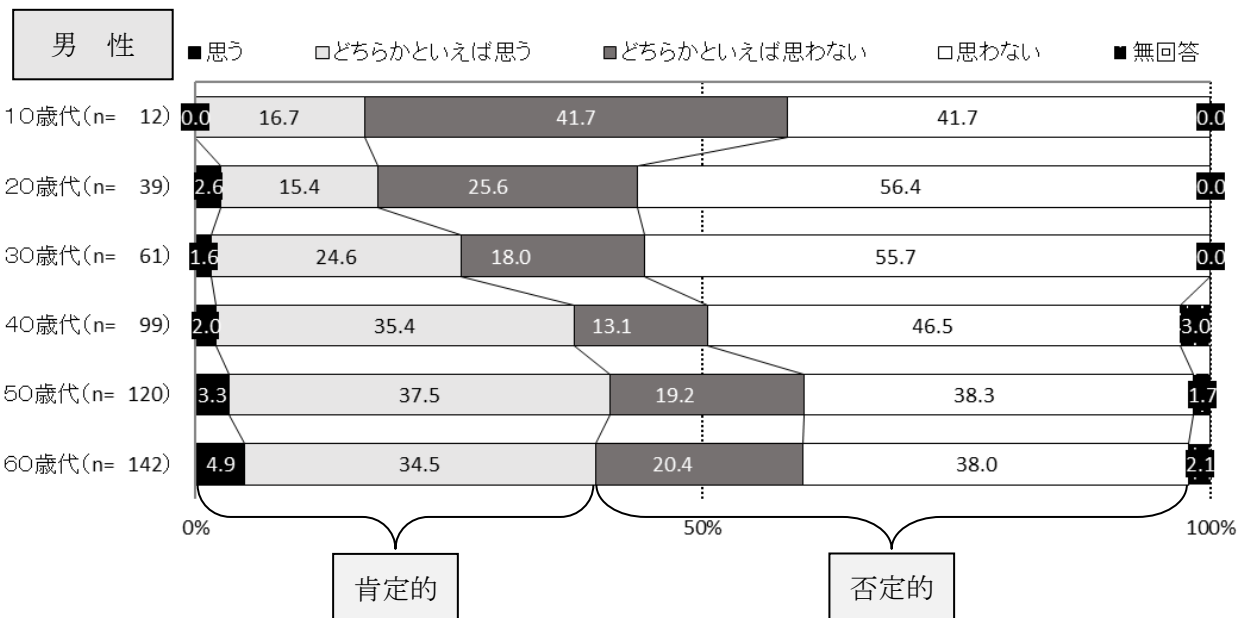
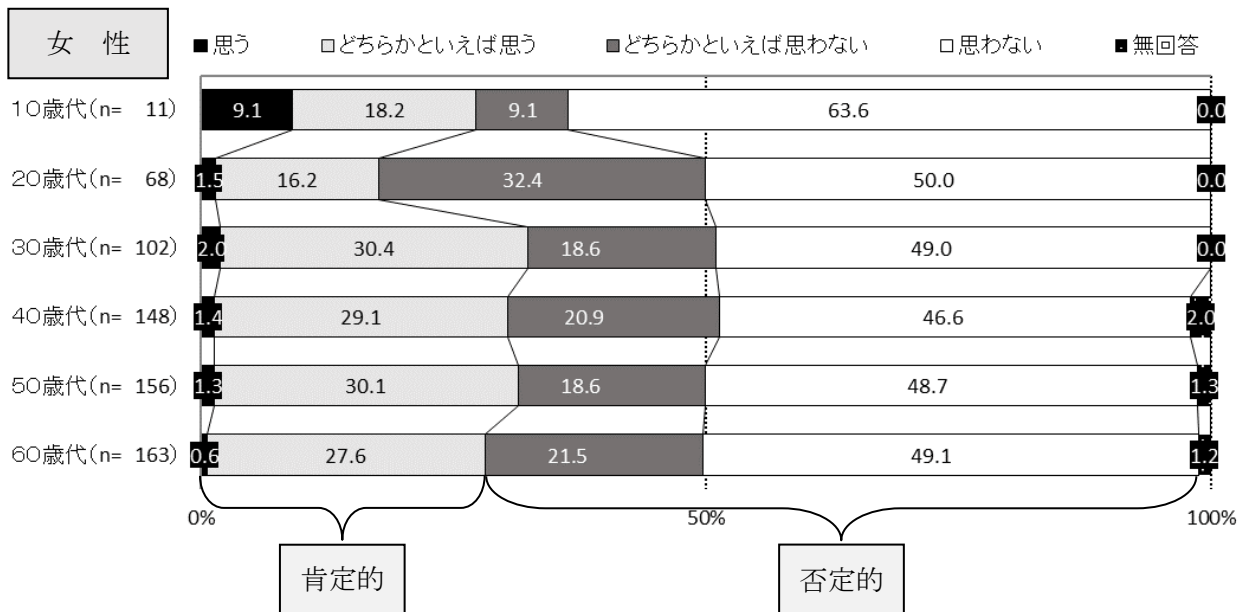
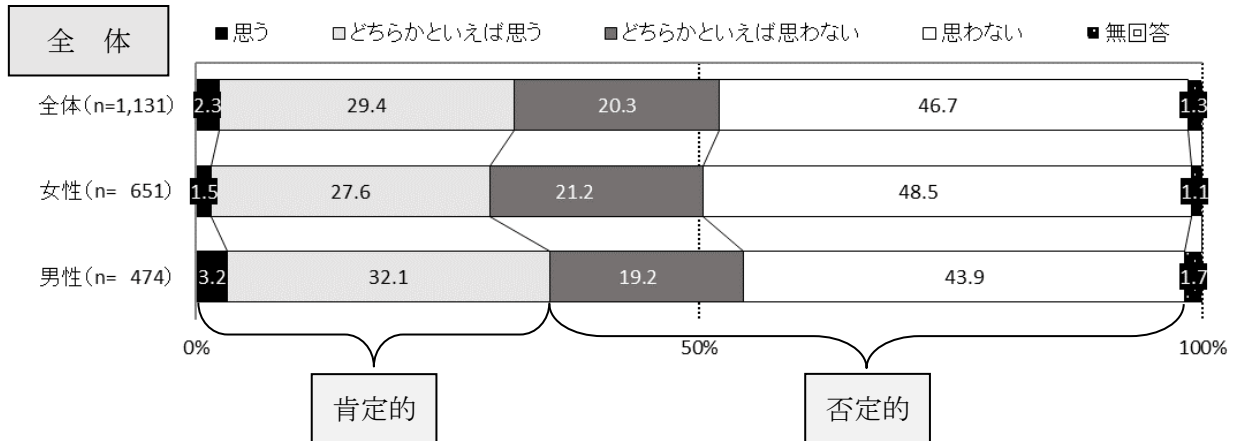
#### ⑦ 地域活動（自治会・PTA・ボランティア活動など）



**問2 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。**

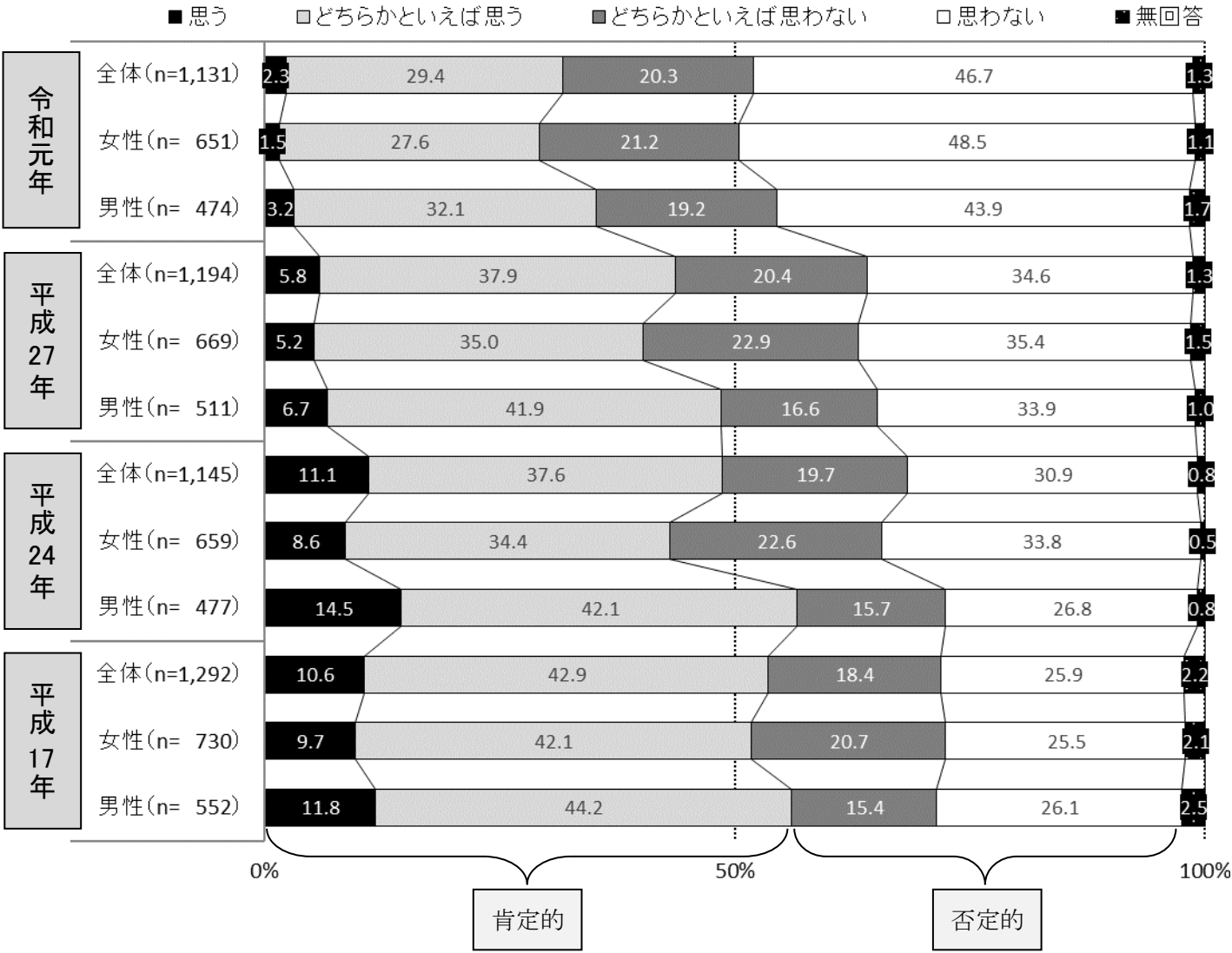
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方については、「思わない」及び「どちらかといえば思わない」の否定的な意見は 67.0%で、「思う」及び「どちらかといえば思う」の肯定的な意見の 31.7%より約 35 ポイント高くなっています。

すべての性・年代別にみても否定的な意見が肯定的な意見を上回っています。



経年比較

過去に実施した調査と比較すると、平成17年度には全体及び女性・男性とも肯定的な意見が否定的な意見を上回っていたものの、24年度には全体と女性で、27年度の調査では全体及び女性・男性とも否定的な意見が肯定的な意見を上回りました。今回の調査では、全体及び女性・男性とも更に肯定的な意見が下がり、否定的な意見が上がりました。



◎平塚市の現状◎（ひらつか男女共同参画プラン2017関連男女別統計）

「固定的な男女の役割分担意識の考え方に同感しない人の割合（全体）」

67.0%という結果となり、前回調査と比較して12ポイント上がっています。

	割合（単位：％）
令和元年度	67.0
平成27年度	55.0

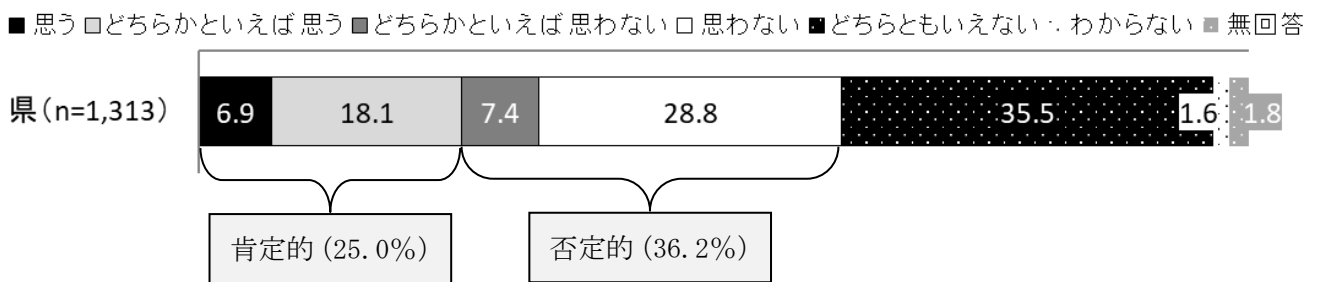
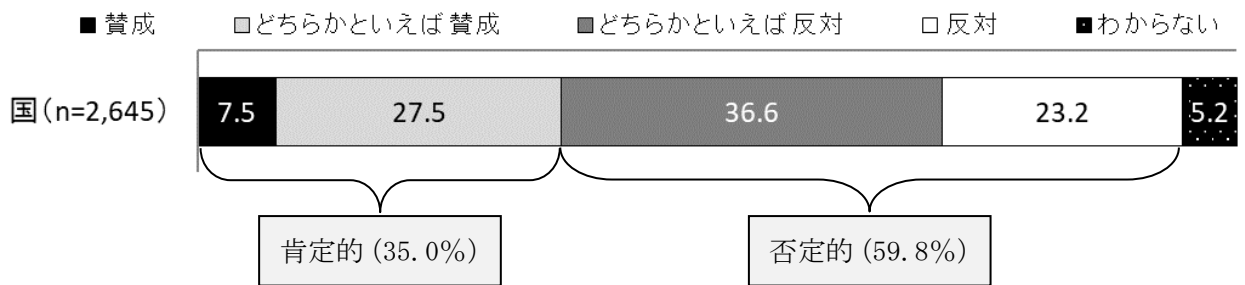
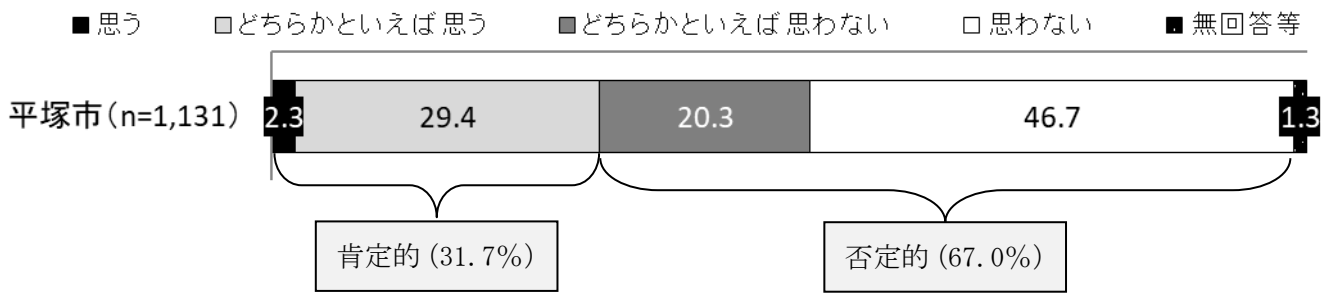
「固定的な男女の役割分担意識の考え方に同感しない人の割合（10代～20代）」

79.7%という結果となり、前回調査と比較して約22ポイント上がっています。

	割合（単位：％）
令和元年度	79.7
平成27年度	58.0



他調査との比較



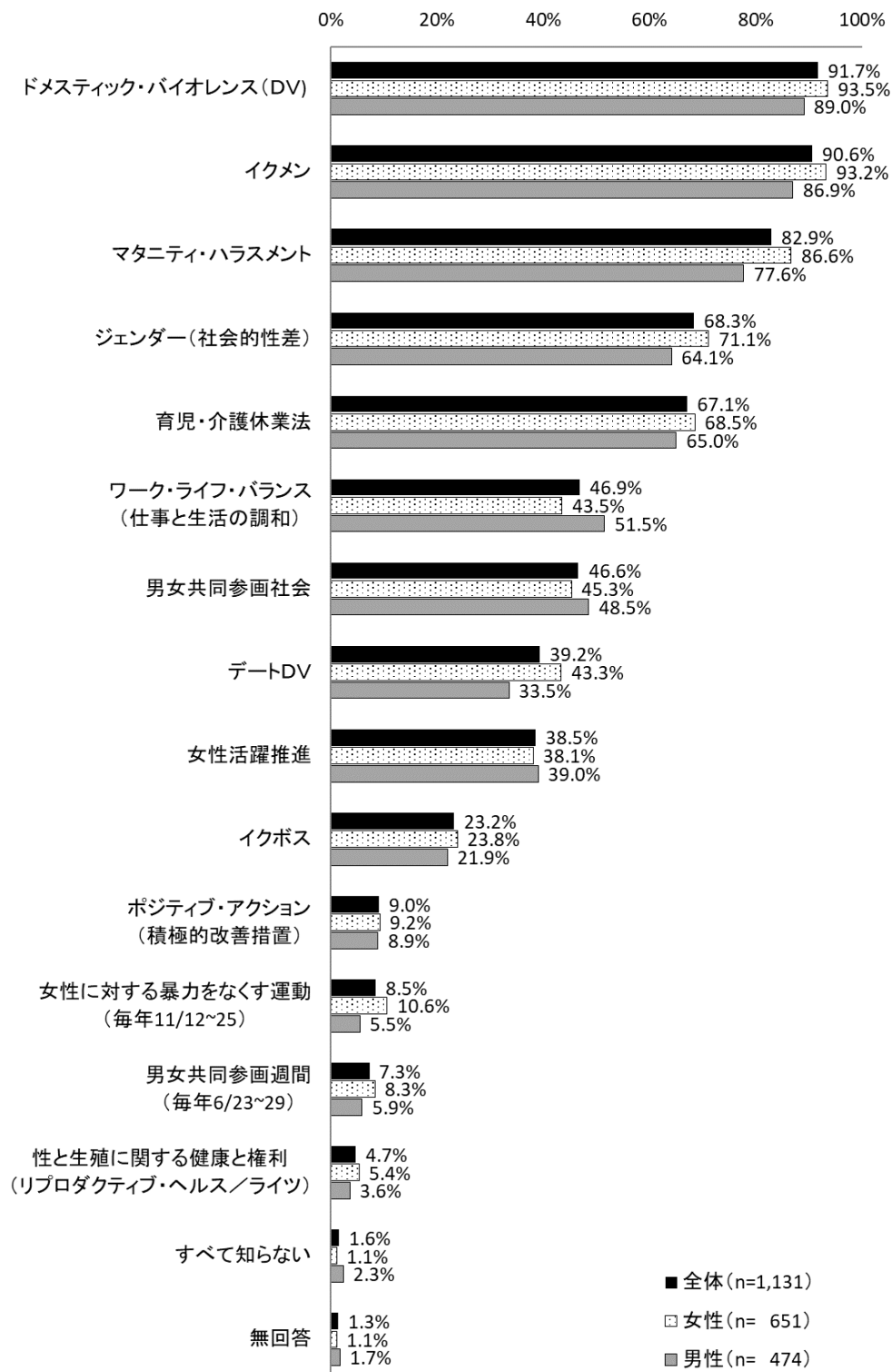
資料：内閣府「男女共同参画に関する世論調査」（令和元年度）

神奈川県「県民ニーズ調査（課題調査）」（平成28年度）

**問3 男女共同参画に関する次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりして知っているものについて、すべてを選んでください。**

男女共同参画に関する言葉の認知については、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」が91.7%と最も高く、次いで「イクメン」が90.6%となっています。

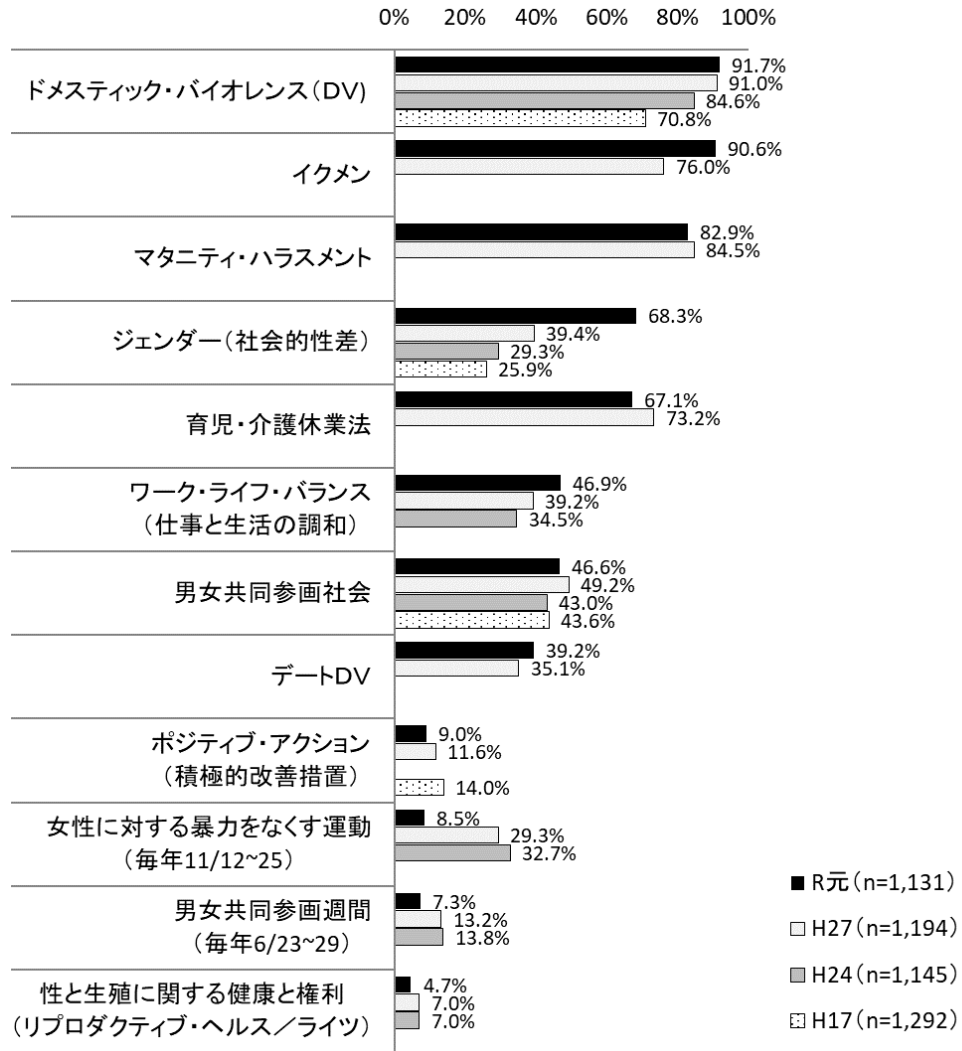
性別にみると、全体的な傾向はほぼ同様となっているものの、「マタニティ・ハラスメント」は女性86.6%、男性77.6%と女性が9ポイント高くなっており、「ワーク・ライフ・バランス」は女性43.5%、男性51.5%と男性が8ポイント高くなっていきます。



※認知度が高い順に記載しています。

経年比較

過去に実施した調査と比較すると、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」、「イクメン」、「ジェンダー（社会的性差）」、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」、「デートDV」、は認知度が上がりました。



◎平塚市の現状◎ (ひらつか男女共同参画プラン2017関連男女別統計)

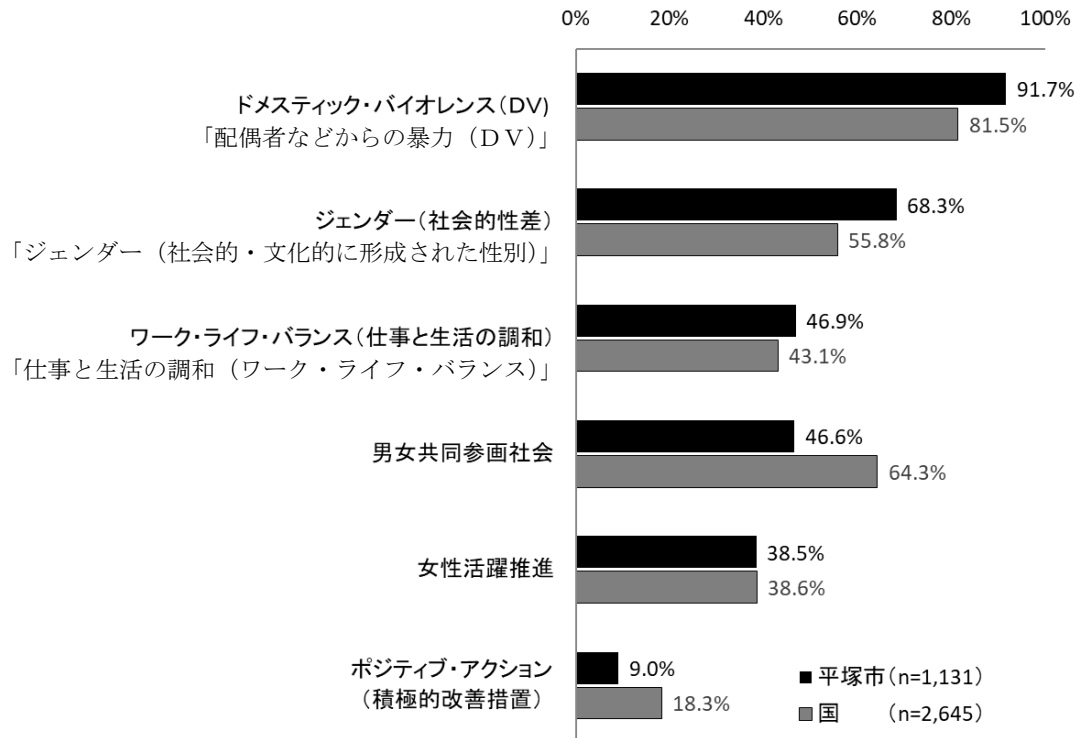
「マタニティ・ハラスメントという言葉を知っている市民の割合」

全体が 82.9%、女性が 86.6%、男性が 77.6%という結果となり、前回調査と比較して、全体は約 2 ポイント、男性は 6 ポイントそれぞれ下がっていますが、女性は約 2 ポイント上がっています。

単位：%

	全体	女性	男性
令和元年度	82.9	86.6	77.6
平成27年度	84.5	85.1	83.6

他調査との比較



資料：内閣府「男女共同参画に関する世論調査」（令和元年度）

※「 」は当該調査の文言